



序文

ニコラス・フォークス

本文

エルヴェ・ジュヌー

かつてパテック フィリップは保守的な時計メーカーであり、控え目なエレガンスを体現しているというのが通念であったようである。しかしティエリー・スターンが創作部門のトップとなり、その後、社長となってからは、同社はスイス時計製作の最高の伝統への不変の敬意と、革新的で時には予想外のアプローチを融合した、いわば変革者としての地位も獲得している。以下のページでは、1999年以来、ティエリー・スターンにとって最も意味深く、パテック フィリップの名声に重要な貢献をした時計をいくつか紹介する。これらを一望すると、あるパターンが見えてくる。直ちに明らかとなるのは、ティエリーが父親に対して抱く愛と尊敬、世代間の継承の重要性、繊細さと美しさへの感受性、ラウンド型以外のケースへの愛、そして大胆さである。これら時計製作における彼自身のすべての側面を結びつける共通項はもちろん、今日ティエリーが守護者となっている神聖な名前、パテック フィリップへの深い敬意である。



「マニユファクチュールパテックフィリップは、自身で所有するものではない。次世代のために預かるものである。」1996年につくられた著名な広告コピーのこの言いかえは、ジュネーブの家族企業の歴代社長すべての motto となるにふさわしい。なぜなら各々の世代は、育むべき豊かな伝統と遺産を受け継いできたからである。しかしパテックフィリップ精神の守護者であるという事は、踏み固められた道とどろ、何も変えないということではない。創造に情熱を注ぐティエリー・スターンにとっては、革新も重要である。祖父アンリ・スターンと父フィリップ・スターンが行ってきたように、それは同社の今ひとつの標語である「自身の伝統を創る」こと、自身の航跡、足跡スタイルを残すことである。新しいタイムピースを開発するにしても、既存のモデルを再解釈するにしても、マニユファクチュールの現社長は常に伝統と革新、敬意と大胆さ、慣れ親しんだものと意外なものとの均衡をとる術を知って

いる。彼が自身の経歴において特に重宝だと考えるいくつかの時計が、彼の直感への信頼とブランドに対する深い知識を明らかに証明している。私たちの調査は1999年に始まる。当時ティエリー・スターンはすでにマニユファクチュールの創作責任者であった。「父と私は、パテックフィリップが時間とエネルギーを費やして婦人用タイムピース市場の主要プレーヤーになることを望んでいました。こうしてTwenty-4マンシエット(カフスタイル)4910/10Aモデルが誕生し、当時としては革命的なダイヤモンドをセッティングしたステンレススチール・パーティンクが発売されました」とティエリーは語る。同年5056Pモデルが発売され、ティエリーはその3年前に発表された特許取得の年次カレンダーを再解釈する過程で、文字盤への関心を深めていた。「このアントラサイト文字盤は当時としては珍しく、当社コレクションのカラー文字盤における、より若く、よりモダンなスタイルの到来を

示していました。これは当社初のブラチナ・モデルでもあり、父の輝かしいアイデアにより、他の白い金属のモデルと区別するためにラグとラグの間にダイヤモンドをセッティングしました」とティエリーは回想する。2004年、ティエリーは年次カレンダー5135Gモデルを刷新することを決めた。今回は曜日、日付、月表示窓を弧状に配置したアントラサイト、またはシルバーホワイト文字盤を備えたラージ・サイズのトノー型ケースを採用した。「私はこのゴンドーロ・カレンダーを長い間、身につけていました」と彼は振り返る。そして同年、新しいクラシックが誕生した。「典型的なパテックフィリップのコンプリケーション・ウォッチ、永久カレンダー・クロノグラフ5970Rモデルです。このモデルは私のこれまで最大のチャレンジであり、父と同様、私が最も誇りに思っている作品です。」



1999
5056P-001モデル
年次カレンダー
直径36.5mmの5056Pモデルは、2つのデザイン上の特徴で注目される。ひとつはアントラサイト文字盤であり、これが同コレクションにおける、よりモダンなスタイルのカラー文字盤の出発点となった。もうひとつは、ケース側面にダイヤモンドをセッティングした初のブラチナ・ウォッチだったことであり、これが現行コレクションのブラチナ・モデルの特徴となった。



1999
4910/10A-010モデル
Twenty-4
30mm x 25.1mmの4910/10Aモデルはパテックフィリップの最も人気のあるデザインのひとつとなったTwenty-4コレクション初のモデルである。ティエリー・スターンがかつて語ったように、「Twenty-4の時を超越したデザインは現代のクラシックとなったのです。」このコレクションには、長年にわたりTwenty-4オートマチック・ハイジュエリー(下)を含む多数のモデルがラインナップされてきた。



2019
7300/1450R-001モデル
Twenty-4オートマチック・ハイジュエリー
直径36mmのラウンド型Twenty-4オートマチックのハイジュエリー・バージョンは、上のモデルを元祖とするウォッチ・コレクションを記念して制作された。プレスレット、リュウス、ベゼル、文字盤は全面にダイヤモンドがスノー・セッティング(ランダム・セッティング)され、きわめて豪華な効果を生み出している。



2004
5135G-010モデル
ゴンドーロ・カレンダー
本モデル(38mm x 51mm)が2004年、最初のコンプリケーション・ウォッチとして加わるまで、ゴンドーロは10年以上にわたり時刻表示のみの時計から構成されてきた。年次カレンダー機構は、1996年に発表されて以来、ラウンド型のモデルにのみ搭載されてきたが、5135モデルは初めてコンプリケーション機能にアール・デコ・デザインを組み合わせた。



プは最初の完全自社開発・製造による手巻クロノグラフムーブメントの発表に向けた準備を進めていた。「誰もが紳士用の腕時計を期待していましたが、私はより大胆に婦人用モデルを選びました」とティエリーは語る。その名にふさわしいレディス・ファースト・クロノグラフ7071Rモデル(写真前ページ右下およびページ左上から2番目)は、角が丸みを帯びたエレガントなクッション型のケースと、サファイヤクリスタルの下に配置された、オリジナルなダイヤモンドの装飾でも際立っている。2010年からは、紳士たちもパテックフィリップの手巻クロノグラフ、5170モデルを入手することが可能となった。社長就任から6年後の2015年、ティエリー・スターンは再び話題を沸騰させた。パテックフィリップ・ミュージアムに展示されている2点のアヴィエーター・ウォッチからインスピレーションを得たカラトラバ・パイロット・トラベルタイム5524Gモデル(次ページ参照)の発表である。「このモデルの発表当時、

パテックフィリップには見えないと言う人もいました。しかしそれ以来、その型破りなパイロット・スタイルのデザインは当社のコレクションとして定着し、今では一大ファミリーを形成しています。」今日、このコレクションには自動巻クロノグラフ5924モデルやアラーム・トラベルタイム5520モデルが含まれている。同2015年には、手彫金とシャンルヴェ本七宝という、パテックフィリップが大切に保護育成している2つの伝統技術による渦巻と唐草模様の文字盤を備えた、ブラチナ仕様のカラトラバ5088/100Pモデルも発表された。「現行コレクションに希少なハンドクラフトを導入するために、この時計を選びました」とティエリーは説明する。

グラント・コンプリケーションはパテックフィリップ・コレクションの重要な部分を占める。2016年、ティエリー・スターンはマニユファクチュールのフラッグシップ・モデルのひとつであるレトログラード日付表示針付永久カレンダー



2004
5970R-001モデル
永久カレンダー搭載
クロノグラフ
この直径40mmのパテックフィリップ永久カレンダー・ムーブメント搭載クロノグラフの先行機種には、1950年代以来の著名な2499モデルがある。ティエリー・スターンは、この伝統を尊重しつつ、パテックフィリップのモダン・クラシックであるこの新しい時計を創作した。



2009
7071R-001モデル
レディス・ファースト・クロノグラフ
35mm x 39mmのレディス・ファースト・クロノグラフは、サファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞できるパテックフィリップ初の完全自社開発・製造手巻クロノグラフ・ムーブメントを搭載したことなど、多くの点で先駆的であった(前ページ右下)。サファイヤクリスタルの下に配置されたダイヤモンドの装飾もオリジナルである。



2015
5088/100P-001モデル
渦巻と唐草模様の文字盤を備えたカラトラバ
この直径38mmの5088/100Pモデルは、手彫金とシャンルヴェ本七宝という希少なハンドクラフト技術を現行コレクションに導入して制作された、見事なイブニング・ウォッチである。このアプローチは、長年にわたり他のクラシック・モデルにも応用された。下はその一例である。



2021
5738/51G-001モデル
ゴールド・エリプス
2015年のカラトラバ(上)と同様、この時計はクラシックなゴールド・エリプスに希少なハンドクラフトを導入した現行コレクション初のモデルであった。シャンルヴェ本七宝と手彫金を施した34.5mm x 39.5mmの5738/51Gモデルはゴールド・エリプス・ファミリーを刷新した(詳細は右上および32~37ページ参照)。



2015
5524G-001モデル
カラトラバ・パイロット・
トラベルタイム
ティエリー・スターンは、
カラトラバ・コレクションの
今ひとつの再構築のために、
1936年、パテック フィリップが
製作した2点のアヴィエーター・
ウォッチ (パテック フィリップ・
ミュージアム所蔵) に
インスピレーションを求めた。
直径42mmの5524モデルの
デザインは、クラシックな
カラトラバとの隔たりから
注目を集めたが、すぐに成功を
博した(左も参照)。



2016
5496P-015モデル
レトログラード日付表示針付
永久カレンダー
直径39.5mmの5496モデルの
2016年バージョン(初発表は
2011年)においてティエリーは、
弧を描くように配置された
ゴールドの植字による日付表示
の数字を含むデザインの強化を
通じ、レトログラード日付表示
針付永久カレンダーを若返ら
せた。「手作業で植字された
ゴールドの数字の創作には
何年もかかりましたが、この
時計の美しさに違いをもちま
した」と彼は説明する。



2023
5316/50P-001モデル
トリプル・コンプリケーション
上の時計と同様に、ティエリー・
スターンは革新的でコンテン
ポラリーなデザインのアイデア
により、コンプリケーション・
モデルを再活性化してきた。
直径40.2mmの5316/50P
モデルでは、ユニークな
スモークガラスの効果を持つ
透明な文字盤が、表示と同時に
時計の機構を見ることを
可能にしている(文字盤の
ディテールは次ページ参照)。



2017
5320G-010モデル
永久カレンダー
おそらくティエリーにとって
個人的に最も満足いく
デザイン再活性化のひとつは、
直径40mmの永久カレンダー
5320モデルであり、彼と彼の
父親は、発表と同時にこれを
着用しようと思ったほどで
ある。シンプルな文字盤は、
日付とムーンフェイス表示用の
ひとつのサブダイヤル、および
曜日と月表示窓から構成されて
いる。シリッジ(注射器)型時
分針は過去に起源を持つが、
現代的な印象を与える。



5496Pモデルを再解釈した。刷新されたモデルは、ビュアで控え目なスタイルを持ち、ゴールドのマイクロ植字による日付表示の数字が文字盤上に弧を描くように配置されており、この開発には4年を要した。

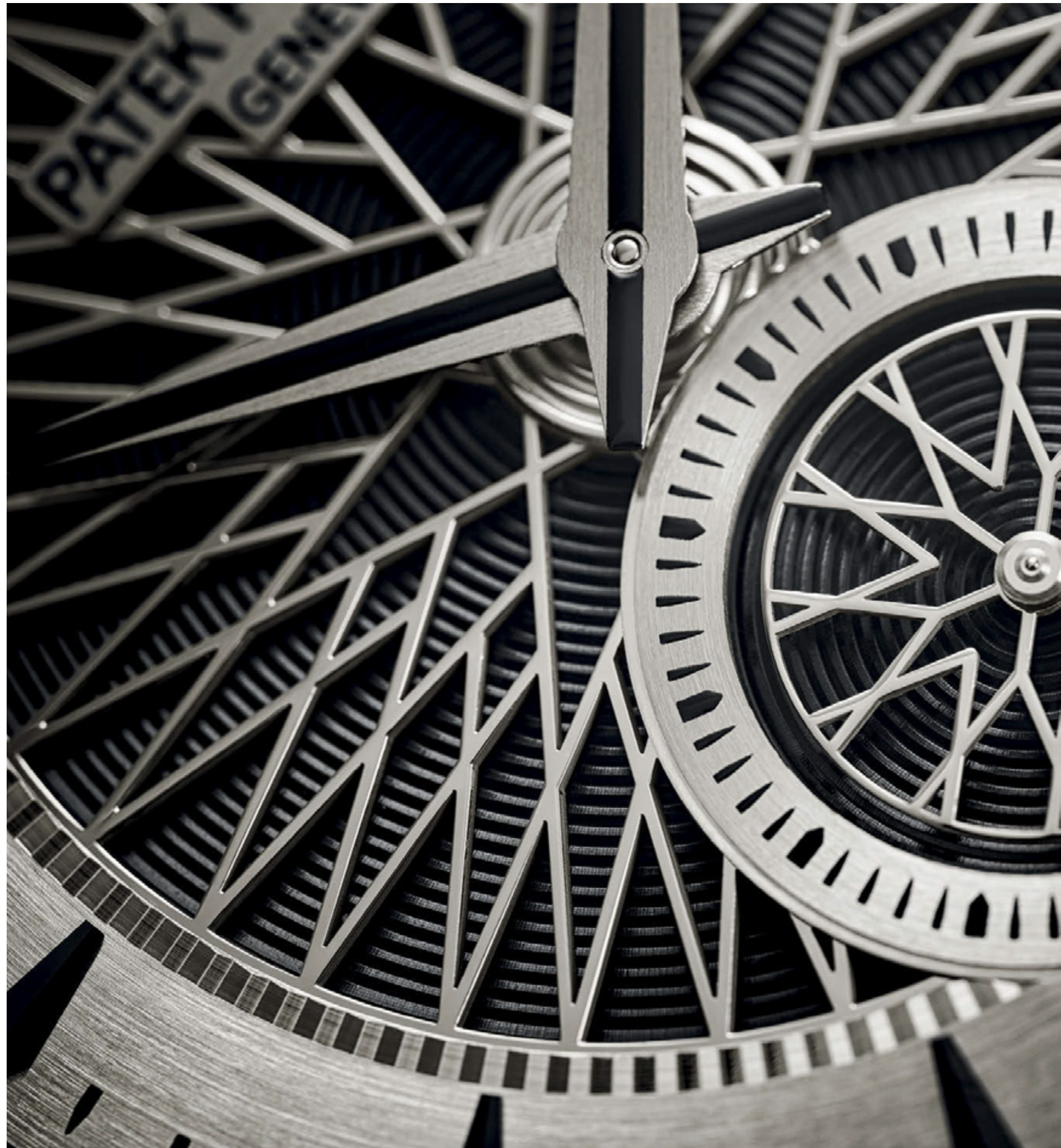
2017年には、ティエリーの言葉を借りれば「均衡と読みやすさの点で模範的なクリーム色の文字盤を備え、クラシックなコンプリケーションを現代的なウインテージ・スタイルで再解釈した」永久カレンダー5320Gモデルのニューバージョンが発表された。「父と私は、発表と同時にこれを用いることで、いつものルールを破りました。これは正に世代をつなぐモデルです」と彼は笑顔で続ける。

その2年後、カラトラバ・ウイークリー・カレンダー15212Aモデル(49ページ参照)により、ティエリー・スターンは再び高級時計製作における従来の美的ルールを刷新した。ティエリーは、曜日、日付、現在の週番号表示を備えたこのステンレススチール仕様の新しいコンプリケーションに、クラシックな紙のウイークリー・ダイアリーを彷彿させる、手書きの文字を再現した書体を使用したいと考えた。「私はその結果に満足し、お客様も気に入ってくれています」と彼は語る。

2018年秋、ラウンド型ケースのTwenty-4オートマチックが発表され、婦人用腕時計が脚光を浴びた。このスタイリッシュな時を超越したエレガントなモデルは2019年、合計3238個のダイヤモンドをセッティングしたハイジュエリー・バージョン7300/1450Rモデル(44ページ左上から3番目)の登場により、さらに豊かさを加えた。

2021年、新しい手巻キャリバー30255PSが搭載されたローズゴールド、およびホワイトゴールド仕様のカラトラバ6119モデル(49ページ左上から2番目)が誕生した。ティエリーはこのタイムピースを「私の父が創作した偉大なクラシック、クルード・バリ(ホブネイル)ベゼルのカラトラバ3919モデルを若返らせたバージョン」と呼んでいる。このモデルの進化は、「第3世代から第4世代への継承の見事な例です」と彼は語る。一方、ミニット・リピーター5750Pモデル(48・49ページ参照)において、ティエリーは新しい技術的、美的アプローチを模索した。このモデルの文字盤のアイデアは、ガレージで車のスポーク・リムを掃除している時に思いついたと彼は語る。「アヴァンギャルドなスタイルは、特許取得の音響増幅モジュールと秒針のないスモールセ

PHOTOGRAPH: JP CATTIN



ム5326Gモデル、および時、分、秒、日付表示のみのバージョン、カラトラバ5226Gモデルが登場した。2つの時計のケース側面は、象徴的なギョシエ装飾クルー・ド・パリのモチーフ（当ページ右下）で装飾され、アンティークなカメラを彷彿とさせるヴィンテージ・スタイルの文字盤を配している。5226Gモデルは「2人の息子と一緒に創った最初の時計です」とティエリーは語る。

2023年にはもうひとつの驚きが続いてきた。ティエリー・スターンは、ミニット・リピーター、トゥールビヨン、レトロград日付表示針付永久カレンダー、ムーンフェイズを搭載したパテック・フィリップの偉大なクラシックのプラチナ仕様バージョン、5316/50Pモデル（46.47ページ参照）を現代的なスタイルで再解釈した。メタリックブルーのサファイヤクリスタル文字盤は、時計の機械的な心臓部をベールを通して垣間見せる、スモークガラスの効果を生み出している。これを見ても、創造性がパテック・フィリップにおいて明るい未来を与えられているのは確かであろう。

コンドを搭載した、このスペシャル・エディション・シリーズ「アドバンストリサーチ・フォルティッシモ」として完璧です。」同じく2021年、ティエリー・スターンは、象徴的なゴールド・エリプスのデザインと希少なハンドクラフト技術の美しさのユニークな組み合わせを創造した。5738/51Gモデル（45ページ参照）は、「モダンで洗練されたスタイルの見事なドレスウォッチです」と彼は語る。このタイムピースは、手彫金の工芸技術とシャルヴェエ七宝を組み合わせた文字盤を備えている。

2022年には、年次カレンダー・トラベルタイ

オーナー・エリア・マガジン・エキストラに、この記事の関連コンテンツを掲載しています。QRコードから、ぜひご覧ください。 patek.com/ja/オーナー



2019
5212A-001モデル
カラトラバ・ウィークリー・
カレンダー
直径40mmの5212モデルは、時刻、曜日、月表示に加え、現在の週番号表示（以上を5本の指針で表示）を備えた最初のパテック・フィリップであり、さらに日付表示窓がこれに加わる。ティエリーはデザイナーに手書きによるレタリングを指示し、後に「文字と数字はそれぞれが異なったユニークなもので、文字盤にヴィンテージで詩的な外観を与えています」と述べている（ディテールは右上を参照）。



2021
6119R-001モデル
カラトラバ
1932年、パテック・フィリップの96モデルと共にカラトラバの物語が始まる。1934年、960モデルがクルー・ド・パリ（ホブネイル）ベゼルのデザインを追加し、1980年代には3919モデルがクラシックを復活させた。ティエリーは次の世紀のために直径39mmの6119モデルを創作した。「3919モデルを見ると祖父が、新しい6119モデルを見ると息子たちが想起されます」と彼は語る。



2022
5226G-001モデル
カラトラバ
カラトラバ・コレクション（上）を継続するために、ティエリー・スターンと彼の2人の息子は、直径40mmの5226Gモデルの伝統を強化する新たな方法を探索した。その結果、ケース側面にクルー・ド・パリ（ホブネイル）装飾を施した、控え目だが複雑なデザインが生まれた。ケースを一周するクルー・ド・パリのモチーフは、ラグの下の部分も途切れずに連続している（右下）。



2021
5750P-001モデル
アドバンストリサーチ・
ミニット・リピーター
ここ数十年、研究開発部門の先駆的な成果を発表する、革新的なデザインのパテック・フィリップ・ウォッチが発売されてきた。直径40mmの5750Pモデルは、ミニット・リピーターの音響を増幅する、純粋に機械的な機構を搭載している。デザインは、車のスポーク・リムからティエリーが得たインスピレーションを具現化したものである（前ページ参照）。